

2019年度(令和元年度)

自己評価報告書

学校法人 東北外語学園

キャスウェル ホテル&ブライダル専門学校

■2019年度（令和元年度） 自己評価について

本校では、学生等が関係業界等のニーズを踏まえたより質の高い職業教育を継続的に享受していけるように、学校運営の改善を目指し学校自己評価を行いました。評価にあたっては、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に実施しております。この自己評価の結果を活用し、さらなる教育活動並びに学校運営等の質の向上に努めてまいりたいと考えています。

1. 対象期間：2019年（令和元年）4月1日 ～ 2020年（令和2年）3月31日

2. 実施方法

- (1) 実施時期：2020年5月
- (2) 実施回数：年1回
- (3) 実施体制：校長を中心に教職員で自己評価を行っております。
- (4) 評価結果の公表方法：当該報告書を本校ホームページに掲載して公表

3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施しております。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

3.評価項目の達成および取組状況

(1).教育理念・目標

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・学校の理念・目的・育成人財像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
②	・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③	・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④	・学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
⑤	・各学科の教育目標、育成人財像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① ホスピタリティの真髓を理解し、それを実践できる業界人・職業人の育成を目指せるように、常に業界の動向を捉えられるよう努力する。
- ② キャスティングサポート制度を導入し、学習で得た知識を、視察や実習、インターンシップ等を通して、業界に精通し、企業とよりマッチングした職場で即戦力となれるように一人ひとりの個性や目標に合わせたサポートしていく。
- ③ ホテル学科については、インバウンドに対応が強く求められているところであり、国際的な視野に立ち、対応できるよう人材を育成していきたい。
- ④ 案内書やホームページ、オープンキャンパスを通じて、学生・保護者に伝えている。入学後に保護者に周知させる部分を工夫していきたい。
- ⑤ 毎年、業界の動向を取り入れられるように、カリキュラムの見直しを図っている。

(2).学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②	・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③	・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
④	・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	②	1
⑤	・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
⑧	・情報システム化等による業務の効率性が図られているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ①② 理事会で承認された事業計画をもとに毎年運営方針を策定している。運営方針及び事業計画は、学校法人の全職員を対象として職員会議等の機会により周知している。
- ③ 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間で意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。高度情報化社会に対応するため令和元年度より「ITソリューション」という組織を編成したが担当者のスキルアップが課題となっている。
- ④ 現在の学校運営の状況に対応するため就業規則等の改定を行ったが、検討を要する事項があったため、専門家及び関係各署に相談をしている。
- ⑤ 意思決定については学園の規程において定められている校務分掌、職務権限に従って行われ、有効的かつ効率的に運営されている。各部門ごとに、校務分掌表を作成し、担当する業務を明確にしている。
- ⑥ 学校として法令や基準等で確認が必要な場合は、宮城県担当者に随時問い合わせ、適切に対処している。また専門家等に相談し、学校法人として基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- ⑦ 各種学校行事の活動状況や学科毎の教育活動・成果については、ホームページで情報公開を行っている。
- ⑧ 成績・出欠管理システムの老朽化のため今年度、基幹システムの更新を行った。今後は情報化社会に対応するためさらにシステムの導入を図っていきたい。

(3)教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
②	・教育理念、育成人財や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
③	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④	・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
⑤	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
⑥	・関連分野における実践的な職業教育(産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
⑦	・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
⑧	・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨	・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪	・人材育成目標の達成に向け事業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
⑫	・関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1

⑬	・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1
⑭	・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	②	1

■状況、課題、改善策について

- ⑤ 企業訪問等で現場の方々からお聞きする業界動向を参考にし、かつ講師陣との連携を図り、必要な事項に関しては授業内容に反映させている。企業、業界団体と連携する機会があれば積極的に現場のニーズをキャッチし、対応できうることを模索し、随時カリキュラムを見直していきたい。
- ⑥ 座学、実技の授業を基盤として、1年次の視察研修で感性を磨き知識を深め、インターンシップでの実践の場で現場力を磨くことを目指している。これらを基に就職への意識を入学当初から育て、職業教育として体系的に組み立てている。
産学連携の在り方を実践レベルで検討していき、カリキュラム作成、インターンシップの実施、教育方法について、どのような効果が得られるのか、メリット、デメリットについて今後の検討課題として考えていきたい。
- ⑦ 現役で活躍されていらっしゃる講師の方々からの内部のご意見を伺う機会はあるが、外部企業、専門家の意見や評価を受ける機会が整備されていない。学校の仕組みとして評価の機会の場を設けられるとより良いと思う。
- ⑧ ホテル業界関係者、外部関係者から評価をしていただくような機会を設けられるとよいと思うが、そういった機会は今のところない。評価をいただいた内容を反映し、現場で必要と思われるスキルを学生のうちから身につけさせ、即戦力となるような人材を業界に輩出できるように、評価を取り入れられる関係性、もしくは産学連携を組めることが理想であり、今後の課題である。
- ⑬ 業界関連の新情報は共有し、資質向上を図っている。しかしスキルアップを目的とした学校独自の教員全体に対する研修等の取り組みは行えていない。社会の財産となる若手を学生のうちから育てる為に、最先端の情報を把握し発信できる教員は必須の存在であり、熱意や資質をより向上させて業界を高められるような取り組みの為に組織づくりは必要と思われる。学園全体で、年に1度でも教員の資質向上が図られる研修の企画を望みたい。
- ⑭ 現状はない。個別の意識で探索し、自主的に参加している。職員への能力開発を目的とした研修について、年に1度でも実施することができれば、さらに新しい知識や視野が広がりより良い発想をもって職務に臨めると思う。(現役の専門分野に従事していらっしゃる方、現代の若者に対する支援に精通していらっしゃる方からの講話や研修、また事務能力向上の研修など)

(4)学修成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
②	・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
③	・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
④	・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
⑤	・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 就職については各担任、進路指導室が連携し、週1回の会議と年間スケジュールに基づき、企業説明会、就職セミナー、就職ガイダンス、模擬面接を実施している。学生と企業のミスマッチを防ぐべく、個人面談を入学当初より実施し、担任・講師・進路室が三位一体となって指導を行っている。
- ② 授業内での指導の他に教室を開放する等自己学習を促し、また課外講座を設けて検定取得率の向上を図っている。各講師が個別に学生の理解度の把握を行うことで、ピンポイントで指導することができている。
- ③ 学生との距離が近い為、方向性に悩んでいる学生の小さな変化にも気づくことができる。広い視野で学生の視点を広げ、退学しないでも可能な将来の方向性を導く努力をしている。
- ④ 企業の方から入社した学生の状況把握はできているものの、他は担任レベルでの限定的な把握で、継続的な把握の為の組織作りができていない。同窓会の組織としてこの把握をすることができたらと思う。卒業生データファイルなどを作成、毎年更新し、OB,OG訪問もより可能になると考えられる。
- ⑤ 卒業生が来校した際、卒業生の意見をヒアリングし教育活動の改善に活用しているが、限定的なものであり、全体としてのシステムは整っていない。卒業後のキャリア形成への効果の把握や教育活動の改善のため取り組みが今後の課題である。

(5).学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②	・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
④	・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
⑤	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
⑥	・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
⑦	・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
⑧	・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
⑨	・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
⑩	・高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 担任が就職、進学指導の窓口となっており、キャリア系科目の講師とともに自己分析、履歴書作成指導、模擬面接指導を行っている。また進路指導室では求人情報の取りまとめと学内企業説明会、学内就職セミナーの企画と実施を行っている。
- ② 担任制を採用し、定期的に学生と面談を行い学習、健康、生活といった相談を行っている。なお特に対応が難しい心理的な問題には、臨床心理士などの専門家をスクールカウンセラーとして配置し担任と連携して相談にのっている。

- ③ 本年度は高等教育の修学支援新制度に関する確認申請を行い、対象校となったことで今後は経済的に困窮している学生に対してこれまで以上に支援ができると考えている。また引き続き日本学生支援機構の奨学金制度、入学時の学費サポート制度、2年次特待生、学費の延納・分割納入など様々な側面から経済的に支援する制度も継続していく。
- ④ 毎年定期的に学生の健康診断を行っている。保健室も常備し、カウンセラーも配置してメンタル面の相談もできる体制を整えている。
- ⑤ 課外活動として毎年バスツアー、スポーツ大会、クリスマスパーティーなどを実施している。日本人学生と留学生の交流の機会を設けている。
- ⑥ 学校の近くに学生寮を設置している。ここでは寮監が常駐し、学習面や生活面から進路の相談まで幅広く対応している。
- ⑦ 保護者には前後期の期末試験後、各科目の成績・出席状況を発送し、学習面・出席面について伝えている。さらに学校の進路の状況についての取り組みの案内文書の同封し、家庭へも就職活動支援のお願いをしている。なお体調不良、悩みによる不登校の学生や問題を抱えた学生の保護者とはその都度担任から電話や家庭訪問による報告・相談を行い改善に向けた連携を行っている。
- ⑨ 社会人のニーズを踏まえた環境として「1年専科」コースを開設し、まず社会人経験者が1年間勉強し、継続して学習を続けたい場合は2年次に転入できるなどの制度を設けている。
- ⑩ 高校生へのキャリア教育推進のため職業理解の模擬授業をはじめ、各種ガイダンス等へ積極的に参加している。また高校へ出張講座も実施して語学教育の普及に努めている。また本校への上級校見学も積極的に受け入れており、これまで多くの中学生が本校に来校し、職業体験をした。

(6).教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように設備されているか	4	③	2	1
②	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
③	・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① プロジェクターとスクリーンが完備されている中、Wi-Fiの利用ができていないことは今後検討課題である。
- ③ 防災訓練は年に1回行われているが、その場に参加していない講師もいるので、想定された実施マニュアルなどを学生、講師へ配付することも必要かと思われる。

(7).学生の受入れ募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
③	学納金は妥当なものになっているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 本校の募集活動については、特に入学後のミスマッチによる出席不良や中途退学等が生じないようにイベント等を通して本校の特徴、学科概要、カリキュラム等を的確に伝えていくことを常に心掛けている。ガイダンスやオープンキャンパスで進路相談に応じる際も、十分にヒアリングを行い本校の情報提供だけに留まらず、その生徒に合った分野の紹介や学校選択のポイント等についてもアドバイスをしている。今後については、さらに本校のことをご理解いただくために、複数回来校してもらえるようなイベント設計を検討していきたい。
- ② 教育成果を伝える手段としては「学校紹介パンフレット」「本校ホームページ」「各種イベント」等を通じておこなっているが、見やすさ、分かりやすさ、伝わりやすさを意識して制作及び伝達に取り組んでいる。オープンキャンパスでは、よりリアルな情報が提供できるように学生スタッフを配置し、参加者とフリートークできる時間も設けている。引き続き教育成果(実習研修、資格取得、就職、進路実績)については、より迅速に最新情報を発信できるように心掛けていきたい。
- ③ 健全な学校運営を基本とし、進学希望者の家計などの環境変化等も踏まえ学納金を決定している。また経済的困窮者が増加傾向にあることから、本校では定期的に学費サポート制度の検討を行うようにしている。

(8).財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
②	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③	・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④	・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 公開している財務諸表の通り、学園の財政基盤は安定している。今後も学生数の確保を図り、健全な財務体質を維持するように努めていく。
- ② 毎年度の事業計画と予算については法人本部、各学校で編成・審議を行い、前年度末の理事会に諮ることとなっている。理事会での決定事項に従い適正に実行している。
- ③ 会計監査は関連法規により監査法人及び監事により適正に行われている。
- ④ 私立学校法により閲覧に供することが義務付けられている事業報告書及び財務情報についてはホームページに公開している。

(9).法令等の遵守

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	4	3	②	1
②	・個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	④	3	2	1
③	・自己評価の実施と問題点の改善を行っている	④	3	2	1
④	・自己評価を公開しているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 設置基準の遵守については適正に行っている。一方教職員の就業規則について一部不備が指摘されているので専門家・関係各署の助言・指導を受けている。
- ② 個人情報保護に関しては「個人情報への取り組み」(個人情報保護方針)を定め、適正な保護の実現を行っている。
- ③ 各部署ごとに年度計画を策定し、週次、月次の会議で進捗状況を確認・共有している。また課題を発見し、改善策を検討していくPDCAのサイクルを出来るだけ迅速に回転していけるように努力している。
- ④ 自己評価の結果については「学校自己評価報告書」としてホームページによる公開を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
②	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
③	・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	①

■状況、課題、改善策について

- ③ 地域に対する公開講座、教育訓練は、現状実施していないが、実施することは施設、講師、運営知識含めて可能と思われる。地域に貢献することにより学校としての認知度、信頼度も上がるので実施検討してもいいと思われる。